

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス 木育みらいの家		
○保護者評価実施期間	2026年1月4日		2026年2月4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13 (回答者数)	12
○従業者評価実施期間	2026年1月10日		2026年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間のコミュニケーションが取れている</li> <li>情報伝達と共有が円滑に行われている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動計画書の共有で全職員が、活動内容とそれぞれの動きを把握できるようにする。</li> <li>なるべく全職員が揃う日に、会議を行っている。会議へ出席できない職員には別日に伝達している。</li> <li>連絡ノートや連絡ツールを使って、スケジュール管理や連絡事項を共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回、活動内容や出来事を振り返る機会をもてるようになると尚よい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援プログラムが固定化されないように工夫している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定化されないように各職員で創意工夫している。</li> <li>5領域を意識した取り組みとなるように週ごとに大まかな内容を決めている(製作、ルールのある遊び、運動など)。</li> <li>静的活動と動的活動を区別化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドラインの理解を深め、5領域に沿ったより専門的な支援を行っていく。</li> <li>職員が支援内容について研修などを通じて理解を深め、個別活動の充実を図る。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリの活用で、活動内容の透明化と、保護者へ子どもの様子が伝わりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ごとに写真とその日の様子や取り組みについて各職員からアプリに反映している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き利用中の取り組みや様子について具体的に伝えていく。</li> <li>活動内容や支援の意図を加えていく。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者交流や外部の交流の機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初年度のため、子どもの行事を優先させたため、保護者会の機会は少なかった。</li> <li>支援計画に沿った療育プログラムを優先した結果、外部の交流は少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度以降、保護者会を各クラスごとに行う。</li> <li>保護者が参加できる参観や親子参加行事を遂行していく。(木育親子教室や、秋祭り、演奏会など)</li> <li>南区のこどもの家保育園との交流を設ける。</li> <li>地域との交流が出来るイベントへ積極的に参加をする。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に面談や助言を行う機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童発達支援クラスでは、保育園送迎の利用者が多く、保護者と直接話す機会が少ない。</li> <li>連絡は連絡帳やアプリを通じて行うことが多く、電話や面談で直接話す機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面談をした特定の保護者のみならず、改めて保護者全体に面談が可能であることの周知と、相談しやすい・困りごとを汲み取る関係づくりを行う。上記の保護者参観など行事や機会を増やすことで、定期的に直接的な保護者との交流を目指す。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが安静に過ごせる部屋、気持ちを落ち着かせられるような区切られたスペースがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広い空間が施設の強みでもあるため、大きなスペースを2つに分けて使っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談室を開放し、子どもも安心したい時、体を休めたい時に使用できるように環境を整える。体調の悪い子には布団を敷いて安静にできるスペースも確保する。</li> <li>パーティションなどを用いて、空間を分ける工夫をしていく。</li> </ul>